

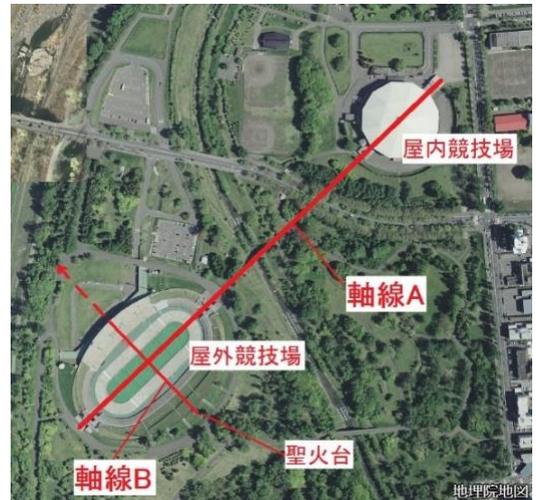


遺構・遺物は語る

真駒内と手稲山 — 札幌の五輪遺産に秘められたコード？

1972（昭和47）年に開かれた 冬季オリンピックの遺産は、札幌市内各地に点在しています。『真駒内公園』もその一つです。屋外競技場と屋内競技場は軸線上に配置されています。写真1に示した軸線Aです。この軸線Aと直交して、屋外競技場メインスタンドの中心とバックスタンドの聖火台を軸線Bで結びました。聖火台は南東端（右下）に位置しています。

聖火台からこの軸線Bをまっすぐ北西（左上）にずっと伸ばしていくとどうなるでしょうか。矢印の先です。私は空中写真上で線を引っぱってみました。約16km先まで引っぱるとあるモノにたどり着きます。場所は手稲山の『サッポロティネススキー場』です。たどり着いた先にはこれまた、札幌五輪の聖火台が立っています（写真2）。



1 真駒内公園

（国土地理院 空中写真 2008 年より 赤字部分加筆）

興味がおありの方は、地理院のサイト（<http://maps.gsi.go.jp/>）でお試してください。真駒内の屋外競技場の聖火台から正面を見晴らかすと、実は彼方に手稲山の聖火台があるのです。これは偶然なのか、それとも設計者が二つの聖火台を長い軸線で結んだのでしょうか。秘められたコード（暗号）

だったのかもしれませんが。



2 手稲山聖火台（2021年3月撮影）

真駒内の聖火台は、工業デザイナー 柳 宗理<sup>やなぎ そうり</sup>の作として有名です。柔らかみを帯びた造形が、屋外競技場の抑制された設計と相まって風景に溶け込んでいます。一方、手稲山のほうはあまり知られていないようですが、久米建築事務所が手がけました。こちらは山稜という立地条件もあってか、鋭角的で突出感があります。真駒内とは対照的です。地形的には中腹のやや突起した場所に、あたかも石狩湾に飛び立つかのように聳えています<sup>\*</sup>。この聖火台が真駒内からの軸線と手稲山の地形を重ね合わせて構想されたのだとすれば、実に壮大です。

手稲山の聖火台は真駒内の“分火”施設として、寄付によって設置されました。聖火台の足元には、建設協力者名を刻んだ碑石が置かれています。しかし、半世紀近い星霜を経て四分五裂し、一部が欠けて読めません。「株式会社久米建築事務所 □□□属鉱業株式会社 株式会社松村組 □□造林株式会社 株式会社ほく□□ □海道相互銀行 □□会社ティネ□□□□□ 完成 1971.11」。人の為せるものが風化して朽ち果てていくのは自然のことわりとはいえ、痛々しくも感じます。将来もし再び札幌に冬季五輪を招致するというならば、先人の足跡には敬意を表したほうがよいでしょう。

昨年から延期された東京オリンピックが今月下旬、賛否分かれる中で開催されようとしています。札幌では8月にマラソン・競歩も予定されています。新型コロナウイルス感染症が五輪を機に拡大することがないよう、願ってやみません。

杉浦正人（手稲郷土史研究会 会員）

※注：中腹のこの突起は、手稲山が5万年ほど前に山体崩壊（地すべり）したときに生じた「流れ山」の一つとみられる。山崎茜「手稲山地すべり平面図」〈2007年〉参照。

## ◆ なつかし写真帖



昭和 28(1953)年撮影 稲穂付近

## 国道 5 号線の舗装工事

私が手稲鉾山から 稲穂へ移り住んだ昭和 25 年頃の国道 5 号線沿いは、住宅はほんの数軒とまばらで、早く拓けたはずの旧国道（通称 下通り）の周辺でさえ 農家があるのみだった。国道はまだ砂利道で、玄関や窓を開けようものなら、埃だらけ。交通量も少なく、当時小学生だった私は 国道で友達とよく遊んだし、冬はその上でスケートやソリすべりもした。

国道 5 号線の舗装工事は、昭和 28 年に着手された。なんでも進駐軍の命令とかで、国道 36 号線（弾丸道路と言っていた）に次ぐらしい。盛り土には 手稲鉾山から出たズリ石（鉾滓）が使われた。しかし、風化しやすかったり、水捌けが悪かったり、重圧に弱くすぐ砕けたりすることが判明して、工事の途中で使用中止になったと聞く。

二枚の写真は、現在の稲穂 2~3 条 1~2 丁目付近で撮った。上の写真⇒ロードローラーは札幌方面を向いている。手前左に見えるコロコロしたものがズリ石。下の写真⇒右側はコンクリート舗装がすでに仕上がっている。左側は未舗装。コンクリートを流し込む前の仕上げ用の砂を女性二人がリヤカーから撒いているところ。写真の前方に見えるのは 銭函へ連なる山なみだ。

まさに隔世の感。現在の立派な四車線道路からはまったく想像できないが、その下には、歩道もないコンクリート舗装の二車線道路が埋まっている。

三國 勲（手稲郷土史研究会 会員）



### ★ 敬文舎より情報紙「My 舎人倶楽部」をご寄贈いただきました

歴史・文化・哲学・芸術などの人文書を専門に出版する 敬文舎（東京都新宿区 <http://k-bun.co.jp>）から、季刊の情報紙『My 舎人倶楽部』第 35 号を手稲郷土史研究会へ 50 部 ご寄贈いただきました。これは、同紙に当会の紹介記事が掲載されたことによるもので、定例会を通じて会員へお配りします。『My 舎人倶楽部』は A4 判・8 ページ・発行部数 2,000 で、全国の博物館や美術館などへも届けられているそうです。“ていね”を発信する機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。



「My 舎人倶楽部」第 35 号

★「定例会」の中止に伴う研究発表の変更について 手稲郷土史研究会の 5 月と 6 月の定例会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。当初予定の研究発表「手稲墓地に眠る思い出の人びと」（一ノ宮博昭 会員）と「17 世紀 イシカリ大酋長ハウカセとテイネ」（沖田紘昭 会員＝会報第 161 号に要旨掲載）については、11 月以降の定例会で調整します。

★「日帰り研修ツアー」を 9 月に予定しています 手稲郷土史研究会の恒例行事『日帰り研修ツアー』を 9 月 21 日（火）に実施する予定です。詳細は 8 月の当会定例会でお知らせします。

次回定例会 ⇒ 発表内容「山口バツタ塚 再考」杉浦正人（手稲郷土史研究会 会員）／8 月 11 日（水）18：15～  
手稲コミュニティセンター 2 階 会議室／マスク着用！ 会場が区民センターから変更になります。ご注意ください！